

2007年2月6日

国土交通省松本砂防事務所長 上野利康 様

霞沢川砂防ダム建設計画中止の為の要望書

松本砂防事務所によると霞沢川に砂防ダム建設の計画があるということです。私たちは、毎年この川に通い谷の美しさを堪能しております。そう長い川ではありませんが、松本市内にあり比較的簡単に野趣に富んだ溪流歩きのできる谷です。

中信地区にある殆どの溪流は、今や自然状態で残っているものはありません。この川も最下流部には既に20～30m級の砂防ダムが数基造られており、美しい溪流環境を壊しています。しかし、砂防ダムによって壊されていない中流部以上には岩肌の美しい岸壁帯の狭窄部があり、水の滴り落ちる岩肌は多様な植物が繁茂しており溪流美を引き立てております。長い年月によって育まれてきたこういった美しい場所を、あえて人間の手によって壊す必要があるのでしょうか？今や美しい谷や景観は、国民の財産とでもいべき存在になっており、次世代に継承すべきものと思います。これ以上の破壊行為は、断じて止めて欲しいと願っております。

そもそも霞沢川から流出する土砂の影響が防災上問題になるというのは、梓川本流との合流点付近の河床上昇を危惧するということになります。もしそうならば、流出土砂量の絶対量を減らさなければならないことになり、許容土砂量や超過土砂量などの考え方では説明できなくなります。

なぜならば、河床上昇の本質的な原因は、奈川渡ダムのバックウォーターの働きでダムへの流れ込み口からの河床上昇が最も主要な原因になっているからです。

また、防災上、流出土砂が一気に多量に流れ出ることを危惧するならば、既に造られている既存ダムのスリット化によって十分代替えできるはずです。

なお、現に中流部にある狭窄部は岸壁の高さ、狭窄幅の狭さからみて特大級のスリット型砂防ダムの機能と全く同じ働きを有しています。上流部からの周期的な土砂供給は決して少ない方ではないですが、ここ数十年の経緯から見れば狭窄部の上流側に溜まる土砂は大きく変動しています。つまり土砂調節されているということです。

以上述べたことを総合的に考えた場合、新たな砂防ダム建設にどのような意味があるのかはなほだ疑問です。従って、当河川へのダム建設計画の中止を強く要望いたします。

また、下記について文章で回答をお願いいたします。

記

- ・霞沢川の砂防ダム建設計画はどのような経緯でなされたのでしょうか。
- ・なぜ計画が必要なのか根拠と計画規模を分かりやすく説明して下さい。
- ・計画に関しては、環境団体等と話し合いを行い、合意なしに一方的に工事を進めないよう約束して下さい。

水と緑の会 会長 常田長治
溪流保護ネットワーク・砂防ダムを考える 代表 田口康夫